

平成 29 年度 郡市医師会学校保健担当理事協議会・ 学校医部会合同会議

と き 平成 29 年 11 月 16 日 (木) 15:00 ~

ところ 山口県医師会 6 階会議室

[報告 : 常任理事 藤本 俊文]

開会挨拶

河村会長 お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。先日、就学時健診を行ったが、年々児童数が少なくなっているように感じる。学校保健に携わるとき一番寂しい思いをするのは、校医を務めていると、先生も生徒も変わってしまうため、残っているのは自分一人になってしまうことであるが、特に先生が代わると学校保健に対する意識も変わっているような気がする。本日はよろしく願います。

協議

1. 平成 29 年度中国四国医師会連合学校保健担当理事連絡協議会について (報告)

平成 29 年 8 月 12 日に徳島県医師会の主催で開催された標記協議会について報告 (詳細は県医師会報平成 29 年 11 月号参照)。参考として、香川県医師会のアレルギー緊急時対応マニュアル、愛媛県のアナフィラキシー対応マニュアル、島根県出雲市の成長曲線に関する資料を紹介。

2. 平成 29 年度中国地区学校保健・学校医大会について (報告)

平成 29 年 8 月 20 日に岡山県医師会の主催で開催された標記大会について報告。(詳細は県医師会報平成 29 年 11 月号参照。)

3. 「学校医活動記録手帳」の活用状況について

県医 平成 28 年度の本手帳の活用状況は 828 部配付し、272 部の回収、提出率は 32.8% であった (27 年度は 34.7%)。本手帳は内科校医に担当校 1 校あたり 1 冊、耳鼻科・眼科の校医には 1

人 1 冊配付しており、30 年度も同様の方法で配付する予定であり、提出用様式をはじめ改善点があればお伺いしたい。

県医 郡市医師会で提出率が低いところがあるのはなぜか。担当理事の先生方に未提出の先生方への呼びかけ等をするなど、お願いしたい。提出がないと実施している意味がない。

郡市 毎年 3 月に提出依頼をしているが、むしろ提出率が高い郡市はどのようにしているのか伺いたい。

郡市 回収の時期に、提出にはどういった意味があるかについて記載した文書をつけて依頼をしている。

県医 記録手帳を配付する際に意義について記載することや、再度回収のときに記録を集計することによって学校医活動の参考になるといった文言を入れるとよい。

徳島県医師会が学校医認定制度を実施しているが、年 2 回程度、研修会を開催して認定をしているようである。どのくらいの成果があるかといったことについて調べて、次回報告したい。

4. ご意見・ご要望について

(1) 学校検尿の判定基準について

委員 県医師会で『学校検尿主治医精密検査実施ガイドライン』を改訂したのが平成 26 年で、このときは土が 2 回続いたときにひっかけることにしたが、これによって要精検となる児童生徒が

増えたという地域がいくつかあった。

その後、2015 年に日本小児腎臓学会から『小児検尿マニュアル』が出たが、このマニュアルでは尿蛋白、潜血いずれも 1+ 以上で異常とすると記載された。

一方で、日本学校保健会発行の『学校検尿の手引き』には、基準について地域の実情に即したやり方で、と記載してある。悩ましいところだが、あまりにも要精検が増えているようであれば、1+ でひっかけてもよいのかなと思ひ意見を出した。

県医 学校検尿の判定基準である 土 を 1+ に改めるとのご意見だが、逆に 土 で腎疾患が漏れることはあるのか。

委員 学校検尿の主な目的は慢性腎炎の発見であり、慢性腎炎が 土、1+ でどこまで予後に影響するかということについては、小児腎臓学会の見解

もないので分からない。

委員 下関市では、土 で実施したために患者が非常に増えた。以前もこの会議でお話したが、1+ に戻してからは以前のように精検数も戻った。

県医 土 など低いところで拾い上げるのは決して悪いことではないが、そのために受診者が多すぎたり、父兄や児童生徒の心配を煽るということになってもいけないので、日本小児腎臓学会が 1+ とガイドしていることもあり、今後は 1+ 以上ということではよろしいか。

県医 蛋白、潜血、糖はすべて 1+ とするのか。

委員 蛋白、潜血は 1+ でよいと思うが、尿糖は糖尿病の心配等もあるので、土 のままでよいと思う。

出席者

郡市担当理事

大島郡 嶋元 徹
熊毛郡 廣島 淳
吉南 吉武 裕明
厚狭郡 長谷川朋美
美祢郡 時澤 史郎
下関市 松永 尚治
宇部市 金子 淳子
山口市 山縣 俊彦
萩市 相良 健
徳山 大城 研二
防府 村田 敦
下松 井上 保
岩国市 藤本 誠
小野田 伊藤 忍
光市 廣田 修
長門市 清水 達朗
美祢市 山本 一誠

学校医部会

副部長 谷村 聡
委員 田原 卓浩
委員 白石 昌弘
委員 竹川 剛史
委員 津永 長門
委員 篠田 陽健
委員 池田 卓生
委員 青柳 俊平

山口県教育庁学校安全・体育課

こども元気づくり班
班長 大塚 準
指導主事 徳永 和泉

山口県医師会

会長 河村 康明
副会長常 濱本 史明
任理事 藤本 俊文
常任理事 今村 孝子
理事 前川 恭子

委員 糖を土にすることに意義があるか、伺いたい。また、変更するにあたっては、平成26年から3年間のアウトカムをまとめていただいて、変更後の平成30年から3年間と比較できるように準備すると今後の論議に役立つと思われる。

郡市 基本的に、糖が土でも異常の可能性が高いため、尿糖に関しては土の方が早期発見できると思う。

県医 では、システムの流れについて蛋白と潜血は1+、尿糖は土として変更する。ガイドラインの関係箇所を修正して差し替えという形にし、県から郡市医師会を通して配付する。なお、学校側への連絡については、県医師会から県教育委員会へ文書を発出する。

(2) 学校医部会役員会の開催回数について

委員 議題について、少ないことや第1回と重なっている部分もあるので、3回を2回にできる場合は2回の方がよいと思った。

県医 県医師会としては『学校医の手引き』を作ったのが2010年で、その後、四肢の状態の健診項目への追加あるいは成長曲線、予防接種なども変わってきている。これらに対して、今後、改訂も検討しており、検討にあたっては、学校医部会の先生方の協力をいただく必要がある。そうしたこともあり、現状の回数で開催させていただきたい。

委員 小児科医が中心となって変更しないといけない部分については小児科医会に依頼していただくなど、各医会でたたき台を作成したり、メーリングリストを活用して、最終的な打合せを会議で行うことでスピードアップを図ることができる。

県医 各医会にご協力いただきながら、より良いものを作りたい。時間がかかることであり、先生方の協力なしにはできない。ぜひお願いしたい。

5. その他

(1) 平成29年度山口県医師会学校医研修会・学校医部会総会・予防接種医研修会・学校心臓精密検査医療機関研修会について

平成29年12月3日(日)開催の研修会について案内した。

(2) その他

委員 ヘリコバクター・ピロリ検査の実施については各自治体に任せられているが、室蘭市では数年にわたって良い成績を上げられている。将来のがん予防の観点から、県医師会として子どもたちの健康を守るという意味で、ぜひ前向きに検討していただきたい。

また、食物アレルギーについては、神奈川県立こども医療センターの事例などがアゲインストにならないように、県医師会も正しい知識の啓発に取り組んでいただけたらと思う。

県医 ヘリコバクター・ピロリ検査については、昨年の中四国ブロック会議における愛媛の報告でも、全国数か所の自治体に取り組んでいるとのことで、除菌率は8割程度であり、相当数のがん予防が期待できると思うが、行政を巻き込んだ話となる。日本医師会等からそういった話はでていない。実証している自治体、医師会から日本医師会にデータを上げていただき、そのデータをもとに働きかけをしていただくのが一番良いかと思う。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090

[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。